

【豊かな体験活動 推進校】

地域の自然や伝統工芸にふれる体験活動

(瀬戸内海の海洋自然や地域の伝統工芸を生かした体験活動を通して)

山口県周南市立久米小学校

学校の概要

① 学校の規模

- 学級数：17学級
- 児童数：439人
- 教職員数：26人
- 活動の対象学年：5年生 68人

② 体験活動の観点などからみた学校環境

- 本校区は、県の瀬戸内海側の中央部に位置して、交通の要衝である。三方を海にかこまれた本県では、各地域で海洋環境を生かした体験活動が展開されており本校に最寄りの光青年の家ではカヌー操縦体験を中心とした宿泊体験活動が計画・実践できる。
- 本市の人口は周南工業地域の発展に伴い住宅化が進んで増加したが、現在は減少傾向にある。周南工業地域は瀬戸内海工業地域の一部であり、第5学年で学習する自動車工業の社会見学も比較できるのでよいことである。それを兼ねて、広島市の平和記念資料館を見学することもできる。ここで戦争の悲惨さや平和の大切さをしっかりとかみしめながら、平和記念公園の清掃ボランティアに取り組みせることが可能である。また、本市には人間魚雷「回天」の基地があり、6年生の歴史学習にもつなげることができる。

③ 連絡先

- 〒745-0801
周南市大字久米3417番地
- 電話：0834-29-0204
- FAX：0834-29-4353

体験活動の概要

① 活動のねらい

- 宿泊体験活動を通して、自分たちの住む瀬戸内地域の自然や県の伝統文化にふれることで地域を愛する心を育てる。
 - ・ 瀬戸内海は海がおだやかで小学生がカヌー操縦体験をするのに最適の場所である。この海洋訓練を通して、協調の精神や生命の大切さに気付く。
 - ・ 本県は萩焼を代表として窯業がさかんであるので、近隣の窯業所で、宿泊体験の初日の活動となる焼き物作りを実施した。土にふれることで、これから始まる長い宿泊体験活動に対する緊張感から解放させる。(アイスブレーキング)
- 平和教育とボランティア(清掃)活動
 - ・ 社会見学に広島平和公園を選び、戦争の悲惨さから目をそらさない見学をした上で、当時多くの方が亡くなった公園内のボランティア清掃に取り組みながら、平和の大切さと現在の友達や家族との豊かな生活のありがたさに気付く。

② 活動内容と教育課程上の位置付け

- 学年の計画による。(全42単位時間)
- 生産活動に関わる体験活動(17時間)
田植え・稲刈り・しめ縄作り・もち米料理
- 宿泊学習に関わる体験学習(18時間)
宿泊先 山口県光青年の家(サネット光)
焼き物作り体験・野外炊事体験・カヌー操縦体験・オリエンテーリング
- 奉仕活動に関わる体験活動(7時間)
広島平和記念資料館の平和学習と、平和記念公園清掃ボランティア活動

1 活動に関する学校の全体計画

○ 活動のねらい

本校の体験活動で重点をおいているねらいは以下の3点である。

- (1) 自分たちの住む瀬戸内地域の自然や山口県の伝統文化に体験活動を通してふれ、県の自然や伝統工芸（焼き物作り）をたっぷりと心と体で味わい、郷土を愛する心を育てる。
- (2) カヌー訓練や野外炊飯・オリエンテーリング等、瀬戸内海の自然にたっぷりとふれ、友情や連帯感を培い、豊かな自然を生活に生かそうとする精神を養うと同時に、最後まで根気強く挑戦する態度を育てる。
- (3) 世界唯一の被爆国の国民として、悲惨な戦争の歴史事実としっかり向き合うことで、平和に向けて自分も何かしてみようとする態度を養い、平和公園のボランティア清掃活動に取り組むことで社会奉仕の心を育てる。

○ 宿泊体験活動（自然に関わる体験活動）について

日 程 平成19年6月6日(水)～8日(金) 於 山口県光青年の家（サセットビル光）

参加者 第5学年児童 68名（欠席2名）

【1日目】

9:00 10:00 12:00 13:00 13:30 15:00 22:30
久米小発→光椿窯→昼食→入所式→グループワークトレーニング→野外炊飯→就寝

【2日目】

6:30 9:00 12:00 13:00 17:30 20:00
起床・朝食→1組（カヌー）2組（釣り）→昼食→1組（釣り）2組（カヌー）→夕食→キャンドルサービス→就寝（22:30）

【3日目】

6:30 10:00 12:00 15:00 15:30 16:00
起床・朝食→オリエンテーリング→昼食（弁当）→オリエンテーリング終了→退所式→光出発→久米小着（16:40）

○ 文化芸術《焼き物作り》に関わる体験活動について（総合学習との関わり）

総合的な学習では、2学期に学ぶ山口県の伝統文化について、事前の調べ学習として焼き物に目を向けさせた。「焼き物作り」は地域の陶芸家の方の協力を得て、手捻りの形成方法で自分にとって必要な生活雑器の作成に取り組んだ。乾燥、色付け、窯焼きの工程まで協力していただいた。文化芸術的体験活動に高めるには、陶芸の全工程を子供の手で行う必要がある。

○ 勤労生産《米作り》に関わる体験活動について（総合学習との関わり）

- (1) バケツ苗の栽培 5月中旬～6月中旬
- (2) 学習田の田植え 6月19日
- (3) 学習田の稲刈り 10月19日
- (4) しめ縄飾り作り 12月19日

以上の日程で米作り体験を実施し、米作りに目を向けることを通して、地域の人や専門家の人たちとふれ合いながら自然に親しませた。さらに、1月21日に学習田で収穫したもち米を活用して、家庭科の学習と兼ねたもち米調理体験に挑戦した。

○ 工場見学・平和学習と社会奉仕に関わる体験活動について

5年生の社会科で学ぶ「自動車をつくる工業」で、広島のマツダ自動車工場へ社会見学に行くことを社会奉仕体験活動と結びつける「媒体」として平和教育を取り上げた。「ノーモアヒロシマ」…核戦争を二度と繰り返さないと誓った平和都市広島、さらには、世界中の人々が平和の大切さを学ぶために訪れる平和記念公園の清掃ボランティアを、自分たちにもできる平和への第一歩として実践した。

日 程 平成19年10月11日(木) 参加者 第5学年児童 67名(1名欠席)
 8:40 11:00～12:00 12:20～13:30 13:00～14:00
 久米小発→ 広島マツダ自動車工場 → 平和記念公園(昼食) → 平和記念資料館 →
 14:00～15:00 16:30
 平和記念公園清掃ボランティア → 久米小学校着

2 活動の実際(自然に関わる宿泊体験活動を中心に)

「焼き物作り」では、遊びながらねん土に親しみを持って触れさせることで、これから始まる体験活動に対する緊張感から解放することができ、有意義な時間が過ごせた。

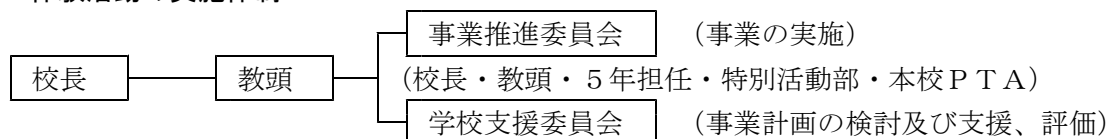
「野外炊飯」は、カレーライスを班で協力して作った。初めての経験のため、マッチでの着火に手間どったり、使用する道具の扱いに慣れず苦戦したりした班もあったが、ほぼ予定通りに進めることができ、おいしいカレーライスを食べることができた。しかし、後片付けを最後まで徹底的にやることをめあてにしていたので片付け完了が遅くなり、計画していた「ナイトハイキング」は中止となった。しかし、何事も最後までやり遂げることの大切さを実感したようである。

「カヌー訓練」は、1組と2組を午前・午後に分けたことで、カヌーを操縦することで養われる海洋訓練体験を十分に味わうことが可能となった。自分の力でカヌーを操縦し目的地まで行って帰ってきたときの一人一人の自信に満ちた表情が印象的であった。

「キャンドルサービス」は、児童の進行で実施した。各係が趣向を凝らしたスタントを取り入れ忘れられぬひとときとなった。天候に関係なく実施できるキャンドルサービスは2日目の夜に実施することで日程的にもゆとりを持つことができた。

「オリエンテーリング」は最終日に昼食をはさんで5時間の日程で本格的に行った。10キロに及ぶ長距離コースであったが、全部の班がゴールして、互いに協力することの大切さを実感していた。ゴールしたときの班のメンバーの達成した喜びと自信に満ちた表情が印象的であった。

3 体験活動の実施体制



4 体験活動の評価の工夫と指導の改善(社会奉仕に関わる体験活動を中心に)

社会見学(平和教育)という体験の場を、子供が主体的に求める学習環境と考え、広島平和記念公園での清掃ボランティア体験の成果を生かして、広島市のあるべき未来の姿を考えさせれば、より主体的に社会的な事象を目を向ける姿勢が身につくと考えた。さらに、ワークショップ型の学習形態をとることで、お互いが主体的に学び合う態度が身につく、よりよい評価への足がかりを見いだせるという仮説のもとに以下の授業実践(事後指導)を試みた。

【第5学年1組 社会科(国語・道徳)学習指導案】

- (1) 単元名 わたしたちの生活と工業生産(工業生産と工業地域)
 ワークショップ ～これからの広島市の宣伝パンフレットを作ろう～
- (2) ねらい 広島市のマツダ自動車工場・原爆記念館を見学した体験や、平和公園を清掃した活動体験をもとに、未来の広島市のあり方に発展させ、班別演習としてパンフレットを企画して発表(プレゼンテーション)できる。

- ※ 国語科 「B書くこと」 内容（1）アに関わる学習内容も含む。
道徳 4－（7）平和教育として、郷土愛・愛国心を培う学習内容も含む。

(3) 展 開

学 習 活 動 ・ 内 容	教 師 の 支 援
1 キーワードを手がかりに未来の広島市を考える。 【キーワード】 ・自動車工業 ・平和都市・世界遺産・国際化 ・国際化（空港、港湾） <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">グループで、これからの広島市の宣伝パンフレットを作ろう。</div>	○ 社会見学という体験活動をきっかけに輪をひろげようという発想から、やりっ放しの体験活動でなく未来の工業地域・都市という企画を考えるパフォーマンス活動を試みる。子供たちが考え易いようにキーワードを絞って与えたい。
2 大判用紙に、宣伝に効果的な未来都市を表現する。 ・特色ある都市 ・行ってみたい都市 ・平和を願う都市	○ 宣伝用のパンフレット或いは、ポスターなどを通して、どうしたら人の目をひくか、行ってみたいか、グループでアイデアを出し合いよい班の例・工夫を紹介しながら、表現の参考にさせたい。
3 各班が企画した都市宣伝を発表する。 ・各班の企画のよさ ・自分の班との違い	○ この企画を聞いて、自分に何かできることはないか、或いは未来の周南市のあり方につながることはできないかを考えさせて終わりたい。

(4) 評価 友達未来都市への提言を聞いて、自分にもできることの目標がもてたか。

(5) 体験活動へのイメージ 《た・い・けん》

- た・・・「単なる遊びではない」（学校教育の中で実施される意図的・計画的なもの）
 い・・・「いろいろな学習につながっていくもの」（学習の発展が期待されるもの）
 けん・・・「百聞は一見（けん）にしかず」（やってみて初めてわかるもの）

5 活動の成果と課題

宿泊体験活動の中で、子ども達は「何事も最後まで責任をもってやり遂げる」「相手を責めるのではなく、相手を認める態度を培う」ことを終始継続して、自分を振り返る重点目標とした。この「2つの誓い」は宿泊体験の後も、学級のさまざまな活動の中で自己評価の基準となった。このことは、個人が体験活動を通して、自分以外の他者・社会・自然とつながる上での自己評価にもなり、自分への自信となった。具体的には、自己の存在が必要とされているという有用感を抱けるようになったことである。特に、バディを組んだカヌー体験、チームでのオリエンテーリング、平和記念公園での清掃ボランティアなどは、一人ひとりの尊い存在を再確認できたといえる。これが、体験の力であり、体験はやりっ放しではいけないと実感させられた点である。体験は、必ず、何かにつながるものなのである。また、体験の企画者は、次につながる学習を予期して計画をたてていくことの必要性を実感した。

これからは、学校サイドが体験の企画者として、地域の方々や体験活動の専門家とのコラボレーションを積極的に進め、教師が体験に対する強い思いと願いを持ち続けることが大切であると感じた。さらに、すべての体験活動において、他教科との関連を模索し、各活動を通して、よりよい評価活動を開発していく必要があると考える。